

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		「強く明るく真心で」を校訓とし、あけぼの学園高校の生徒として一人ひとりが“自信と誇り”をもち、地域に貢献し地域から信頼される学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	○学びに向かう力を育み、成果をあげる体験を重ねることで自己肯定感・自己有用感を高め、新しい時代を生き抜く力を持っている。 ○あけぼの学園の生徒として誇りをもち、地域の一員として積極的に活動することで、地域から信頼を得ている。 ○他の生徒の多様性を尊重して寛容な態度で接し、かつ共通の課題に対し協力して取り組んでいる。 ○制服や頭髮など高校生としてふさわしい身だしなみを整え、社会で通用するコミュニケーション能力を身につけている。
	ありたい教職員の姿	○目指す学校像の実現に向け、「チームあけぼの」の一員として自校の存在価値を高めている。 ○授業を大切に学力向上を図るとともに、生徒の小さな成長の積み重ねに力を注ぎ、その成長を目にすることを自らの喜びとし、自らも成長しようと自己研鑽に取り組んでいる。 ○生徒及び教職員相互の多様性を尊重して寛容な態度で接し、かつ学校の抱える課題に協働して取り組んでいる。 ○様々な形で積極的に地域と連携・貢献し、地域とともにより魅力ある学校づくりに取り組んでいる。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒> ○わかる授業、部活動の充実、安全・安心で楽しく充実した高校生活 <家庭> ○安心して楽しく過ごすことができる学校生活、学力向上、進路実現 <中学校> ○多様な生徒の受け入れ、生徒個々への丁寧な指導と進路実現 <地域社会> ○学校・地域の連携強化、地域振興・活性化、学校からの情報提供・発信、地域の担い手育成等、学校の活性化 ○基礎学力、体力、コミュニケーション能力や社会的マナーを身につけた人材の育成	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待 <家庭> 安全・安心な学校 基礎学力の定着、進路実現 学校の情報提供 <中学校> 丁寧で親身な指導 多様な生徒の受け入れ 生徒一人ひとりの進路実現 学校の情報提供 <地域社会> 地域の担い手育成 社会的マナーを身につけた人材育成 人権教育の充実 地域行事などへの参加と地域貢献 学校の情報提供 開かれた学校づくり コミュニケーション能力の向上	連携する相手への要望・期待 <家庭> 学校の指導方針への理解・協力・連携 学校行事への参加と助言 <中学校> 教育活動の相互理解 生徒同士の交流と教職員間の連携 学習習慣の涵養、基礎学力の定着 目的意識の向上 <地域社会> 地域の子どもたちの本校へ入学希望 学校行事への参加と助言 教育活動への理解と協力 本校への求人確保とその増加 インターンシップの受け入れと協力

(3)前年度の学校関係者評価など		○地域貢献と連携 地域に密着した学校として、さらに地域行事への参加を促進することで、地域を支える担い手であることの自覚を醸成するとともに、活動を通じて生徒の自己肯定感の向上につなげる。また、近隣の小中学校との連携を図ることで学校の魅力化をすすめる。 ○コロナの影響の払拭 コロナによる影響を最も受けた世代の生徒に対して、十分でなかった体験や学びを高校生活で担保していくために体験的な学びの機会を増やす必要がある。 ○学習活動の中で効果的な教材の使用方法について 4年前から、iPadを導入し、効果的な活用を推進してきたが、授業内容への有効性について精査する必要がある。
(4)現状と課題	教育活動	○授業力の向上のための授業公開を充実 「教科の壁」を取り除いた授業参観を行い、教科内容ではなく授業中の生徒の意欲、学びの継続性を中心に参観を行い、指導方法の工夫につなげる必要がある。 ○様々な課題を持つ生徒への対応の充実 面談期間を拡充し、生徒とのコミュニケーションを充実させ、寄り添った指導を行う必要がある。また、社会福祉協議会と連携を図り『校内カフェ』を設置するなど、生徒の居場所づくりに努める。
	学校運営等	○学校の特色の周知と地域社会との繋がりの強化 年次や各系列による特色ある取り組みを、保護者をはじめ多くの方々に知っていただけるよう更なる情報発信が求められている。また地域に密着した学校として、地域行事への参加、近隣中学校と連携を図る等、学校の魅力化を一層すすめる必要がある。 ○教職員の資質向上と健康的な生活の支援 魅力ある学校づくりに、教職員の満足度や達成感の向上が不可欠である。多様化する教育課題に対し、教職員研修の一層の充実化を目指すとともに、ワークライフバランスの改善に努める必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	○各自の興味や目標に合わせた選択科目を配し、資格取得等への積極的なチャレンジを促し、多様な進路目標の実現を目指した学習を行う。 ○基本的な生活習慣を確立し、基礎学力を定着させることで、進路実現に必要な学力を育成する。また、コミュニケーション能力を向上させ、生徒一人ひとりの学校生活を充実させる。 ○ICTの活用を推進し、Society5.0時代を生きるための力を身に付けさせる。
学校運営等	○学校の特色や独自性を十分議論し、地域連携の取り組みや情報発信を積極的に行い、地域のニーズを正確に把握した活動に取り組むことで、学校の活性化や地域貢献につなげる。 ○学校行事・分掌業務・部活動指導等について、精選や見直しを行うとともに、同僚性を発揮し、協力・協働して取り組む体制を確立することで、教育活動や学校運営を継続的に改善するための仕組みが機能し、教職員が元気にいきいきと職務を遂行することができるようになる。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミSSION・ポリシー】	○多様な生徒が学ぶ中で、共感と協力の精神を大切にし、他の生徒や教職員との良好な関係を築き、学校全体のコミュニティに貢献できる生徒 ○教育の機会を最大限に活用し、自分の能力に合ったペースで学習し、自らの能力を伸ばすために努力できる生徒 ○夢を持ち、目標を設定し将来の自分を想像しながら、自己の進路実現に向けて計画的・継続的に努力できる生徒
---	---

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果
学習指導	◇生徒の実態に即した学習指導の工夫と基礎学力の向上を図る。 【活動指標】 ○授業公開及びテスト前補習を年2回実施(◎) ○ICTを活用した授業を全教科で実施 ○生徒による授業評価アンケートを年2回実施(※) 【成果指標】 ○「基礎力診断テスト学習評価ゾーンⅠランクアップ」の生徒35%以上(R5:25.5%) ○「レッドカード」前年比減(R5:不認定61、未履修63) ○「学習指導に概ね満足」生徒80%以上(R5:79%)	○授業公開は2回/年行った。テスト前補習は、英語、数学で行った。 ○ICTを活用した授業は、教科のみならず、LHRや探求の時間でも活用した。ICTを使ったグループワークのあり方についても模索したい。 ○「基礎学力診断テスト学習評価ゾーンⅠランクアップ」であるが、総合[国数英](1年次)6月→12月:24.0%(2年次)昨年12月→6月:18.8%6月→12月:37.1%(3年次)昨年12月→6月:31.8%2年次の第2回は達成できたが、全体では27.9%で達成できなかった。D3の生徒のGTZがアップするように基礎学力の定着を目指す。 ○レッドカード発行数:「レッドカード(不認定・未履修)」不認定+未履修108科目○生徒アンケート「本校の学習指導(授業や補習等の勉強面の指導)に満足していますか。」学校経営数値は75%であった。
生徒指導	◇高校生としての身だしなみを整え、基本的生活習慣を確立するために粘り強く取り組む。 【活動指標】 ○全教員による日常的な身だしなみ指導の実施(※) ○全教員による日常的な見守り(登校指導、休憩時間等の校内巡視)の実施(※) ○特定の違反者への特別指導の実施 【成果指標】 ○頭髪服装違反が前年比3割減(R5:890) ○登校遅刻が前年比4割減(R5:1627) ○「生徒指導に概ね満足」生徒70%以上(R5:71.2%)	○頭髪指導違反数:1,400件 ○登校遅刻数:2,021回 ○授業遅刻数:3,098回 ○全職員で朝の登校指導、休憩時間等の校内巡視を行っているが、一向に指導対象者は減っていない。 ○本校の生徒指導(頭髪服装や態度、社会のルール等に関する指導)に満足していますか」活性化数値は69%であった。
安心・安全な学校	◇心身の健康と自他ともに大切にする態度の育成を図り、安心・安全な学校作りを進める。 【活動指標】 ○心身の健康状態の把握と情報共有、教育相談の実施(※) ○命を考える講演会の実施 ○学校生活やいじめ、人権に関するアンケートを年5回以上実施(◎) 【成果指標】 ○人権アンケート「落ち着いた環境で、周りの人と協力しながら安心	○教育相談については、大変充実しており、生徒の情報共有も確실히行った。 ○OSCに週に1回は対象生徒に面談を行っているが、予約が一杯で面談を受信できない生徒もいる。 ○命を考える講演会については、1回行ったが、来年度以降さらに回数を増やしたい。

	して生活できている」生徒90%(R5:94.4%)	○人権アンケート「落ち着いた環境で、周りの人と協力しながら安心して生活できていると答えた生徒。前期の数値※年度末に記載 ○「学校生活全般に満足している生徒」の学校活性化数値は74%であった。 ○「本校の健康指導や教育相談(カウンセリング)に満足していますか」の学校経営数値は、81%であった。 ○保健、教育相談、担任等:生徒の情報共有を養護教諭と密に行うことができた。細かな情報共有が外部機関とつながるきっかけになることもあった。 ○1年次対象に6月に性教育講演会を実施。
キャリア教育・進路指導の充実	◇自己の生き方を主体的に考え、資格取得や部活動に意欲的に取り組み、自己肯定感を高め、社会に貢献できる人材の育成と希望進路の実現を目指す。 【活動指標】 ○「産業社会と人間」「総合研究」やLHR等における「IGABITO 育成事業」と連携した地域学習やフィールドワーク、インターンシップの充実(◎) ○資格取得や部活動の推奨(※) ○卒業生による進路講話、地元企業による講話の実施 ○個人面談・ガイダンス面談を年4回以上実施、3年次個別の面接指導3回以上実施 【成果指標】 ○「地域社会への関心が高くなった」生徒80%以上(R5: 64.6%) ○資格試験、検定試験の受検者(延べ人数)(R5:277人)、部活動加入率(R5: 55%)前年比増 ○「希望進路が実現した」生徒100%(R5:100%) ○「進路指導に概ね満足」生徒80%以上(R5:82.5%)	○「地域社会への関心が高くなった生徒」は、70.4%であった。 ○1年次で職業レディネステスト、就職準備テストを行った。「地域を知る」ということだけでなく、2年後の就職を意識した行先選びができています。また、就労に不安のある生徒に対して、就労体験を行うことができた。 ○被服製作検定4級6名受験6名合格、3級6名受験6名合格(2年次ファッション造形基礎選択者) ○簿記実務検定3級1名、情報処理検定2級6名、3級11名、ビジネス文書実務検定1級4名、2級13名、3級14名 ○「進路希望が実現した生徒」は、100%であった。(就職49名、進学13名、その他3名/65名) ○「進路指導に概ね満足している生徒」は、78%であった。
人権教育の充実	◇様々な人権問題に関心を持ち、人権意識を高め、主体的に行動できる人材の育成を図る。 【活動指標】 ○人権だよりの発行、HRC 風への参加(※) ○3年間を見通した人権LHRを各年次3回実施(◎) ○生徒の実態を踏まえた人権講演会の実施 【成果指標】 ○「差別をなくすための、知識や行動を身につけるきっかけになったと思う」「自分がしっかりと学習をしていけば、差別をなくしていけると思う」生徒80%以上(R5:92.9%) ○「人権教育に概ね満足」生徒80%以上	○人権だよりを10回/年発行し、本年度は1年次の生徒が風の活動に参加した。 ○人権LHRについては、各年次で3回実施できている。 ○同窓会主催の特別人権講演会に希望者は参加した。 ○「差別をなくすための、知識や行動を身につけるきっかけになったと思う」「自分がしっかりと学習していけば、差別をなくしていけると思う生徒」は、93%であった。 ○「人権教育に概ね満足の生徒」は、8

		0%であった。
改善課題		
・支援を必要とする生徒や外国人生徒が増加しており、それらの支援における課題が明らかとなってきている。 ・ICT 活用が生徒の基礎学力の定着につながる取組が求められている。 ・変動や不確実性など先行きが不透明な社会を生き抜く力を身につけるため、キャリア教育の充実は不可欠である。 ・生徒が安心して学ぶことができ、生徒に身につけるべき力を育成するために、学校全体で取り組むことができるよう、組織の見直しや、教員のスキルアップが求められている。		

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果
情報発信 信頼構築	◇保護者や地域への情報発信や連携を通じて、共に歩む学校として信頼構築を図る。 【活動指標】 ○地域への情報発信 あけぼのニュースの発行 年4回以上(※) あけぼのブログの更新 月1回以上(※) ○保護者や地域への公開・交流・連携事業 年10回以上(※) ○学校ホームページの更新 月2回以上 【成果指標】 ○「学校の教育活動がよくわかる」保護者70%以上(R5:70.5%)	○「本校の教育活動(学校で行われていること)がよくわかりますか。」学校経営数値は64%であった。 ○地域への情報発信については あけぼのニュースを年4回発行し、伊賀管内の中学3年生には一人1枚、また亀山地区の中学校には、クラスに1枚、また地域住民には、回覧板に載せ情報発信を行った。 ○あけぼのブログは、22回更新、また公式 Instagram を開設した。15 回更新 ○「学校の教育活動がよくわかる」保護者は、64%であった。
チームワーク・組織力の向上	◇分掌や年次の枠を超えた協働により、教職員間の連携を高め、組織力の向上を図る。 ○学校信頼向上のための、学校レクリエーションの実施 月1回以上 ○保健委員会を週1回開催、情報共有及び組織として対応する体制の構築(※) 【成果指標】 ○「仕事にやりがい、楽しんでいる」教職員70%(R5:66.7%) ○「学校経営の一翼を担っていると感じている」教職員80%(R5:70.1%)	○生徒の様子を共有することで、各々の先生方がその生徒に対して対応をしている。 ○保健委員会を1回/週に行い、生徒情報の共有を行っている。 ○マネジメント委員会:生徒会と連携して、レクの実施、5月バレー6月カードゲーム7月ドッチボール また、夏休みに教員 BBQ で教員間の親睦を深めた。 ○「仕事にやりがい、楽しんでいる」教職員は59%であった。 ○「学校経営の一翼を担っていると感じている」教職員は70%であった。
資質向上	◇教職員は、日頃から自己研鑽に励み、学校の課題解決に向けて他の教職員と協力・協働して取り組む。またすべての教職員に法令遵守の意識の醸成を図る。 【活動指標】 ○学校信頼向上委員会の活動の推進(※) ○教職員の資質向上のための校外研修への参加年1回以上(※) ○校内研修会や学び合い活動の実施年3回(◎) ○コンプライアンスに係るアンケート及びミーティング年3回実施	○今年度は、職員の人権意識を高める取組として寺田地区へのフィールドワークを開催した。 ○特別支援教育、遠隔授業、いじめ防止についての現職教育を実施した。 ○「ハラスメントを許さない職場である」と感じる教職員は78%であった。

	【成果指標】 ○「ハラスメントを許さない職場である」と感じる教職員80% (R5:70.2%)	
組織運営 働き方改革	◇各分掌の業務の見直し、削減に取り組み。教職員のワークライフバランスの改善の取組を推進し、総勤務時間の縮減に取り組む。 【活動指標】 ○各分掌の業務の洗い出しと分担の見直し(※) ○定時退校日を月1回設定、実施率100% (R5:100%) (※) (◎) ○部活動の休養日を週1回設定、実施率100% (R5:100%) (※) ○放課後に開催する定例会議は60分以内設定、実施率100% (R5:100%) 【成果指標】 ○年休取得日数、一人17日以上／年 (R5:16.9日) ○時間外労働時間、一人平均7時間以内／月 (R5:9.0時間) ○月45時間超、年間360時間超の時間外労働者0人(◎) (R5:2人)	○定時退校日を月1回設定したが、実施率は100%であった。 ○部活動の休養日を週1回設定したが、実施率は100%であった。 ○放課後に開催する定例会議は60分以内と0設定したが、実施率は100%であった。 ○時間外平均労働時間は、7.9時間であった。※年度末に記載 ○月45時間超時間外労働者0名、年間360時間超労働者0名であった。※年度末に再記載

6 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次への 取組方向	レジリエンスの高揚 ・困難や課題を抱えた生徒が多いので、教育活動の中で生徒の自己肯定感、自己有用感を向上させる取り組みを充実させる必要がある。 帰属意識の向上 ・生徒が「この学校で良かった」と思えるように、生徒自らが主体性を持って文化祭や体育祭の行事を運営できるような取り組み及び次年度に繋がるような振り返りの活動を設ける必要がある。 キャリア教育の充実 ・自分の将来をデザインできるように、コロナによる影響を最も受けた世代の生徒に対して、十分でなかった就労体験や学びを高校生活で担保していく必要がある。
-----------------------------	---

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	特別活動等の充実 ・本校は、自己肯定感の低い生徒や就労に対して不安のある生徒等、多くの課題を抱えた生徒が多数いる。それらの生徒の自己肯定感や自己有用感を涵養できるような取り組みを行い、本校で成長し、社会で通用する人材を育成しなければならない。 ・放課後のクラブ活動の活性化し、心身を鍛えるとともに、自己実現のために目標を持って努力を継続させ、その生徒にとっての達成感を持たせ、自己肯定感を高めなければならない。 ・職場体験実習や就労体験を充実させ、自己の進路について保護者と共に早期から主体的に考えさせるとともに適正についても見極める機会を充実させたい。 ・教科指導の中での体験的な学びの機会を増やす必要がある。
学校運営についての改善策	様々な課題を持つ生徒への対応の充実 ・保健委員会を週1回行い、生徒の情報共有を行っているが、各分掌、年次でさらに積極的に情報共有を行い、学校全体の問題として捉えるようにしたい。また今後は情報共有だけに留まらず、改善策の討議ができるような委員会に発展させたい。 ・面談期間を拡充し、生徒とのコミュニケーションを充実させ、寄り添った指導をさらに行う必要がある。 ・『校内カフェ』を設置するなど、生徒の居場所づくりに努めているが、活動のさらなる充実を図りたい。